

第4回宇治市スポーツ推進審議会

議事要旨

宇治市

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

〈開催年月日〉

令和3年11月26日（金） 9時30分～

〈開催場所〉

宇治市水道庁舎3階 大会議室

〈出席者〉

➤ 委員

長積 仁（会長）	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
佐野 恵理子（会長職務代理）	（一財）宇治市スポーツ協会 理事
上林 功	追手門学院大学 社会学部 准教授
小川 雅洋	（株）京都パープルサンガ 地域連携本部長
小西 美加	京都文教大学 女子野球部総監督
佐藤 朋子	宇治市スポーツ少年団 本部委員
多田 重光	（公社）宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
西山 正一	宇治市体育振興会連合会 副会長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事

計9名

➤ 事務局

脇坂 英昭	産業地域振興部 部長
荻野 浩造	産業地域振興部 副部長
久泉 昭人	産業地域振興部 文化スポーツ課 課長
萬谷 智	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 係長
小森 一範	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
玉木 太陽	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主任
伊藤 大志	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事
吉高 史彩	産業地域振興部 文化スポーツ課 スポーツ係 主事

計8名

〈会議内容〉

1. 開会

- 会議録の公開についての説明
- 欠席委員の報告
- 事務局職員紹介

2. 会長あいさつ

3. 議事

- 次期宇治市スポーツ推進計画初案について

（委員）

「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」の考え方は非常に素晴らしいと思うが、一方で、手を広

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

げてばかりに感じる。リソースを投入して広げていくという形にならないか。持続発展から持続可能にする為には、サイクルさせないといけない。たのしみ、つながり、ひろがった後に、それをどう「たのしむ」に戻すかという考え方が必要である。小さくても良いので、好サイクルを回した方が、より改善できて大きなものができていくと思う。特に、行政の取り組みは単年度で事業を完結させないといけないことを考えると、短いサイクルで回すという考え方がある方が良いのではないかな。

好サイクルにする為にはどうするか。DXとかIoT、ICT等の情報関係は、共有やフィードバックがしやすい。戦略的な方針について書いてあるが、これを何とかしてフィードバックするところまでのケアについても書いておくべきだと思う。市民に対して提供していくばかりではなく、市民自身にも動いてもらうこと、例えばSNSの活用やアンケートのQRコードを掲げるだけでも良い。何かしらの情報を戻す、もしくは共有する仕組みについても言及した方が良いと思う。

拡大発展だけではない方向性についても打ち出しておいた方が良いのではないかな。

(会長)

「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」で、サイクルにしないといけない。また、サイクルだけではなくて、つながり、ひろがることで新しく生まれたものが同じように「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」という循環になることが必要である。市民の主体性や自立性を育むための仕掛けを盛り込むべきというのは、すごく良い視点である。

(委員)

スポーツをたのしむところを見ると、さまざまな機会を通じて、ICTを上手く使うことができると思う。逆に言うと、スポーツをたのしむ中で、さまざまな機会を通じて単純にたくさんイベントをすることで終わってしまう。何かしら、もう少し別の切り口を入れた方が良いのではないかなと思う。「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」が縦軸とすれば、何か横串を刺す様なことができればと考えている。領域を分けるとか、具体化をすれば、もう少し整理ができるのではないかな。

(委員)

例えば、「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」に、「する」「みる」「ささえる」を掛け合わせると、するうえでの楽しみ、見る楽しみは分かりやすい。支える楽しみだと分からないことが出てくる。「つなげる」になると、支えてつなげるは分かりやすい。「ひろがる」も、同じように「する」「みる」「ささえる」の形でみると分かりやすい。国が進めている「はぐくむ」と「つくる」を加えた形で、この「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」をもう少し整理すると、拡充すべきところが見えやすくなるのではないかな。

(会長)

最初に国で「はぐくむ」と「つくる」の視点を加えたと書いてあるが、それが見えない。とりわけ「はぐくむ」は、いくつかの視点で機会を作るとそう見えるが、自分で主体的に何か仕掛けるという絵がまだ描けていないと思うので、それは少し補足をさせていただければと思う。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

宇治が何かのスポーツの聖地になり、市民を含めて、参加することや来てもらう仕掛けづくりができればと思う。スポーツに参加された方も、応援された方も、応援した後に宇治で観光や宿泊をして、観光消費につながるところがある。枝分かれというところで観光の面あった方が良いと思う。地域や商店街など、色々な枝分けのところまでつながっていけばと思う。

(会長)

産業振興部局が計画を作るという重みを受け止めるべきだと思う。今回は、広がりとか横串を刺すというところにすごくこだわったところがあるので、どう集客していくか、どう人を呼び寄せられるのかについても書くべきだと思う。活性化を図るために何を仕掛けるのかということも踏み込まれていない。観光と連動する時に何を仕掛けていけば活性化や集客につながるのか。そのあたりも組み込んで書くべき。さまざまな広がりのあるところに何を仕掛けていくのか、どんな仕組みを作っていくのか、それをまた次に何につなげていくのかが見えるような、そんなことができれば良いと思う。

(委員)

計画をまとめた後、これを読む対象、この文章を読んで活用する方は市民になるのか。

(事務局)

市民やスポーツ団体の皆さんにも積極的に活動していただく必要があると考えている。また、当然事業者の方にも協力いただく必要がある。特に市民とスポーツ団体の方に、市はこういう方向性だということを理解いただければと思っている。

(委員)

これを読んでイメージできるかどうか。具体的にどうしたら良いのかというところで、絵をもう少しシンプルに、市民はまずこういうところから始めたらどうかということが見えるようなものになると良いと思う。我々の様に議論してきた者から見ると、皆の意見が集約されたり、問題提起されていると分かるが、市民はこれを読んで理解できるのか気になる。リーフレットも作られると思うが、文章のまとめが大きな粒も小さな粒も一緒に羅列されているところがある。支えることにも色々な支え方がある。どう参加したら良いかというところに気持ちが向くようなものになると良いと思う。

(会長)

読みやすく、市民がなるほどと理解するような未来を表現するのに、物足りなさを感じるところがある。メリハリをつけて、市が進む方向性は市民が活用するのではなくて、行政が施策を打ち、宇治市のスポーツの姿と宇治市のまちの姿をどう描くかという方向性を示すものだと思う。宇治市の未来ががこうなっていくということに対して、ワクワクしてもらえそうなものが書けないといけないと思う。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

市民に向けた呼びかけの中でスポーツをしている方を応援しましょうという内容も入ればと思う。スポーツする人としてもギャラリーや応援があるとより頑張れる。応援したら自分もやりたくなる。「応援」というところも少し入ると一歩前向きに進めると思う。もしくは、スポーツができない人でも、応援したくなるような意識付けができれば良いと思う。

(会長)

スポーツがまちづくりに関わることを促すようなものが施策にないといけないと思う。支える文化や関わる文化が、何か自分達の周りの日常生活に対してコミットする文化を生み出すということはすごく重要だと思う。

政策は、仕組みを創るということもそうだが、宇治に独特の文化を創っていくこと、そこに醸成していくことの政策もある。

(委員)

「FUN SPORTS PLUS」の「FUN」の部分で、たのしむということを、宇治はリスペクトしている。楽しくなくては始まらないということをスポーツから発信することが、平易な言葉ばかりで分からないというところの突破点になるのではないか。例えば、何か行政的な提案とか、色々な事業を提案いただいた時に、「それは楽しいですか？」という感じで、まずは市から言っていく。そういう方向性もあるのではないか。何か思い切って打ち出せば、市民にとっても分かりやすく、とにかく楽しいことを提案してくださいという話になるし、「それはみんなにとって楽しいですか」というのは、ダイバーシティとかインクルージョンにもつながるのではないかと思う。

(会長)

楽しむことを基軸にしたのであれば、それを前面に出すというのも一つだと思う。基軸は楽しむということで、その打ち出し方をしていく。スポーツをする人だけではなくて、地域の色々な方々が、楽しむことに意味があるということ、それを打ち出すことは、一つの手がかりになると思う。

(委員)

具体的に何をするのかと言われると、なかなか分からない。12年の期間での計画を作っているが、来年度から具体的に何をしていくのか、市民も気づかないのではないかと思う。来年度から、計画がまとまった後にどう動いていくのかについても、必要なのではないかと思う。商工会議所や産業界がどう携わっていけば良いのか、どのようにつなげていくのかも、分かりにくい為、もう少し工夫が必要であると感じた。

(会長)

スポーツ推進の方向性を3つ出しているのであれば、その3つの方向性に対して目標が掲げら

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

れていないのはおかしい。また、商工会議所や企業が関わった時に、どんな姿になるかということが描かれておらず、どこに接点があったのか見えない。目標設定に関しては、推進の方向性の3つを軸にしなが、関わる方々とどうなっていく姿が評価できるのかというところを書きたいと思う。

(委員)

最近ではAIカメラを使って、そこから表情を読み取ることもしている。例えば宇治駅前に監視カメラを付けて、市民が笑顔になっているかとか。目標値も従来通りのスケールのものももちろんあるが、多様な楽しみを捉える研究が進んできている。それがKPIになるか、それとももう少し定性的なものになるか分からないが、ぜひ取り入れていただくとありがたい。

(会長)

政策にそんな目標を掲げて数値を載せると、インパクトがあると思う。このプランの大きなところは、この街に住んで本当に良かったというところだと思う。

個人情報かもしれないが、監視カメラでの笑顔を評価にする等、宇治駅に帰ってくる方が笑顔になっているという発想もあって良いと思う。

(委員)

京都市にはないものが宇治市にはある。それを全国や世界に発信したい。スポーツをする人と応援する人が最後に交流できればと考える。例えば体験会という形で、来てくれた人に感謝を伝える交流イベントをする等。そういったことで、参加した方もまたスポーツを好きになる様なサイクルが回っていくと思う。スポーツを見に行く人、応援したい人は、ただスポーツが好きで行くのではなくて、その場が楽しいとか、子育て世代の方々だと休みの日に行く場所がなくて、イベントがあったので来たとか、そういうスポーツモデルを描きたいと考えている。

スポーツ好き以外を集める方法を色々と考えている。キッチンカーを呼んだり、市民の方に出店していただいたり、フリーマーケットを開催して、ついでにスポーツを観戦するという仕掛けをつくることで、全く関係のない分野の方々が楽しめる。定期的で開催をしていると、出かける理由ができる。足を動かすきっかけにもなる。何かそういう横のつながりをつくれたら良いと思う。

スポーツにとどまらず、観光産業、福祉という言葉が並んでいるが、それぞれの分野の市民団体の方から提案をもらうのは難しいので、これを定期的で開催して、そこに付随する形にまとめると、みんなが一緒に参加できるのではないかと思う。定期開催で実施し、市民の方に分かりやすく提示するところを一番に持ってきたら良いと思う。

(会長)

やはり長いスパンで考えていくことも必要だと思う。スポーツに関係ないものが並んでいるのはどうしてかというところを売りにするのも良いと思う。食に関する内容はこれまでも行っていると思うが、伝統産業とか、違和感があることで逆に面白さを生むことができると思う。

あそこに行けば何かあるというような聖地化ができれば面白さがあると思う。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(委員)

スポーツ少年団も続けるということはすごく大変なので、広がり続けるのはすごく大変なことだと思う。

定期的開催するイベントで子育て世代や親世代、婚活世代なども交流できればと思う。市民が増えないと街は続かない。定期的に市民が交流する場、観光客に来ていただいて交流する場がすごく大切だと思う。

市民が参加できる場にするためには、行政にも市民を受け入れていただく必要がある。一定のルールは必要だと思うが、柔軟に小学校や中学校など、地域との交流が広がればと思う。

交流でつないでいく、続けていくのは、本当に大事だと思う。子ども達が巣立つと高齢者ばかりになる地域もあり問題になっている。京都や宇治は良い街なので子ども達も帰ってくる。まだ楽観視しているところもあるかもしれないが、なかなか結婚しない人が増えていることを考えると、交流が大事だと思う。

(会長)

何かに関わっていく、コミットする時のハードルを極力下げるという発想が重要だと思う。関わることができる文化を醸成するために、行政ならば規制を取っ払ったり、横ぐしを刺したりしていく必要があると思う。まちをより良くしていくことに積極的にコミットできるような文化が醸成されれば良いと思う。

(委員)

マッチングアプリの仕組みを考えると答えが出てくるのではないと思う。市民はどの分野だと自分が参加できるかということをもっと考えるので、スポーツは嫌いでも、スポーツをした後に温泉めぐり等があると、そこに参加したいという意欲が湧く人もいると思う。生きがいは大事だと思う。スポーツのファンになることで寿命が延びた方もいる。そういうこともできるとなればとても面白いと思う。スポーツの力はたくさんある。

(会長)

色々な縁をつなぐための仕掛けをして、今まで出会わなかった人と出会えたり、結びつけたりする場を作っていくことはできると思う。

(委員)

スポーツ好きな親子は、親がスポーツ好きであったりアスリートになる子ども達は親がスポーツに理解がある等、データとしてもそういう傾向があるらしい。

インクルーシブやダイバーシティの話もある為、子どもの頃から一緒に家族で楽しめるスポーツができると、スポーツ振興に非常にインパクトが大きいと思う。子どもは、楽しくないとやらない。「FUN SPORTS」というコンセプトとしても合うので、一つの考え方としてはあるのではないと思う。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

インクルーシブやダイバーシティが言われているので、実際に施策化をする時には、ターゲットを決めることも大事だと思う。そういう意味でマーケティング戦略もある。何と何をつないだり掛け合わせるか、そんな視点が重要ではないかと思う。

(委員)

宇治市第6次総合計画はいつスタートしたのか。

(事務局)

第6次総合計画は、現在策定中である。来年から12年間の計画を現在策定している。

(委員)

第6次総合計画との連携とあるが、まだできていないのに、どう整合性を取るのかと思ったのと、この計画が第6次総合計画を上回るような提案をしても問題は無いか。

(会長)

総合計画を超えるようなアイデアを出したいと話をしている。

(委員)

横文字の解説書を最後につけてもらえるとありがたい。市民は0歳から100歳までおり、高校生が読んでも分かるような言葉にした方が良いと思う。

「FUN SPORTS PLUS」の横に小さい文字で「楽しいからはじめよう」とあるが、もう少し大きくしてもらいたい。

また、43～44年間活動していた東宇治地区のあるスポーツ団体が、来年の運動会をもって活動を終了する。「たのしむ」「つなげる」「ひろがる」の、「つなげる」に地域コミュニティ分野とのつながりの強化があるが、そういう事態に体育振興会が置かれている。なぜ体振から脱退するかは、やはり役員の高齢化がある。また、自治会組織もなくなっている。自治会組織に入ると、役員をしないといけないし、行事も多い。行政にお願いしたいのは、計画の推進体制で書かれている様な、スポーツ分野に関わらず、観光産業、まちづくり、防災など、行政のあらゆる計画の中で全市的な取り組みをすること。スポーツをする人だけの計画書ではなく、市民のつながりや楽しみが底辺にあるということで、第6次総合計画を上回るような内容にしたいと思う。

今は、個人の生活を重視する思想が流れているのではないかと懸念している。しかし人間は一人では生きていけないので、やはりどこかの団体に属するという気持ちもまだあると思う。地域的には自治組織や町内会組織が弱くなっているので、行政も一緒に考えてもらいたい。一緒に進んでいかないといけないと思う。

(事務局)

第6次総合計画とこの計画との関係は、この場で色々と議論いただいたものを第6次総合計画に反映させるというイメージになる。今は、第6次総合計画の基本構想のパブコメをしている。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

自治組織の関係については、我々としてもスポーツを通じて地域コミュニティを活性化させたいという思いがある。スポーツでそれぞれが健康になることと地域の絆を育んでいきたい、スポーツを通じてコミュニティを活性化させていきたいという思いから、この基本理念としている。

(会長)

第6次総合計画と連携・整合性を図っていくことが重要になる。既にお願ひしてあることとしては、産業振興部局が作っているの、スポーツと関係ないような産業の視点とかを、もっと計画にも盛り込んで連携させていくイメージを持ってもらいたいと話をしている。

用語については、最後にまとめて掲載する。SDGsは知っているという話があったように、知らない言葉も、周囲で何度も使っていると、その人にとって普通になっていく。逆に、解説を載せた上で知らない言葉を普及させて、我々の価値観や考え方、共通認識を広げていきたいという思いもあり、カタカナや知らない言葉を入れている部分もある。そのあたりの理解をいただきながら、用語集でフォローしたいと思う。

自治についても、参加しなくなるのはどうしてか、それぞれの組織のあり方を見直す機会が重要だと思う。我々は、すべての煩わしきから取り払われたいわけではなく、煩わしいけど関わりたいことはたくさんあると思う。どう巻き込んでいくかを考えていく必要がある。煩わしきもありながらも、良さもあって関わりたいと思えることを、どう自治会組織が進めていくか、それも考えていけたらと思う。

(委員)

友好都市間との国際交流についても入れておいた方が良いと思う。スポーツが一番その垣根も越えやすい。アルティメットもあるし、そういったことも含めて、よりつながりを広げていくところで、スポーツから進めると良いのではないかと思う。

(会長)

団体間の話になっていたが、国際間も国内間も、都市間の友好活動のツールにスポーツは使われてきているのに、そこが盛り込めていないのは寂しいので、ひろがりつつつながりの部分に書ければ良いと思う。

(委員)

12年間、計画が推進されることを考えると、ウィズコロナという文言は必要なのか疑問に思う。3~4年後に見直しがされるので、そこまではあっても良いかもしれないが、違う感染症も出てくると思うので、違う名前に変えていかないといけないのではないか。感染症対策はこれから持ち続けられないといけないと思うので、今回の計画でコロナの文言を載せておく必要があるのか、アンケートにコロナ前コロナ後が書かれているので載せているのも良いかと思うが、12年先までの計画であれば、感染対策としてコロナという名称は避けるべきではないか。

それから、宇治市のメインスポーツイベントの1つはマラソンだと思う。宇治川マラソンは宇治市にとって大きなイベントで、何十年と続けられてきたものなので、3年中止になっているのは残念に思う。宇治川マラソンは、見にくる方、応援する方、参加する方、色々な思いで参加す

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

る方もたくさんいて、内容は少しずつ毎年変わっているが、参加する方は宇治に来たいという思いで全国から来られている。大きい大会を宇治市はもっと大事にしていくべきだと思う。計画には固有名詞は出せないかもしれないが、一つのをずっと継続して行っていくことが必要ではないかと思う。

また、既存施設の有効活用とあるが、常に切羽詰まっているところがあって、既存施設が指定管理者になって市から離れていく部分があるのではないかと。12年後になれば、ほぼ民間経営の施設になって、結局、民間施設を利用する形になっていくのではないかと思う。施設も公民館が廃止されたり、施設に投資ができない分、もっと違う部分で考えていけない部分があると思う。以前の話にもあったが、例えば万歩計を使って福祉から観光につなげるとか、長いスパンで市民が使えるツールで、スポーツに限らず健康を維持していけるものを、宇治市がどこかの企業とタイアップして実施していくとか、そういう内容をこの計画に盛り込めないかと思う。各市町でも実施されているので、真似するのはどうかとは思いますが、和歌山県でも観光ツーリズムやスポーツツーリズムで、観光とスポーツを一緒に考えた計画や活動がされている。宇治市もスポーツと観光をタイアップして何かしていくと、もっとスポーツが発展するし、健康とのつながりに向けて進むのではないかと思う。

宇治川マラソンや企業とのタイアップとか、市民が読みたいものは広報だけでは見られないので、どんどん発信して、宇治市と市民とのつながりを大事にしていけないとコミュニティが崩れていくと思う。そのあたりを上手く進めていけるような文言が計画に盛り込めないかと思う。

(会長)

既存の事業とか施設を維持するだけではなくて、どう進化とか発展させていくかという視点も重要だと思う。既存のものを、どう新しい価値を生むものに変換することができるか、そんな視点があると良いと思う。

自治を守っていく、まちを作るのは市民一人ひとりが主体であり行為者である。行政と市民だけではないが、どう協働するか、どうともに作り上げていくかという発信もあると良いと思う。住民の主体性や自立性に対する仕掛けとか仕組みについても布石を植えつけておかないと、これは全部行政が実施するのかと捉えられると大変なことになると思うので、そのあたりはもう少し考えたいと思う。

(委員)

事例の紹介になるが、来月18日に東京マラソン組織委員会がバーチャルランを行う。内容としては、アプリと連携させて、走った距離を測って参加する形になる。42.195kmもしくはハーフマラソンの距離が測れば、全国どこからでも参加できるというもの。これは極端な事例だが、今は地域とバーチャルが切り分けられているところがある。この実験を通して、実際の地域とどうつなぐのかという話が進むのではないかと思う。コロナ前は陸上トラックとかの施設整備にすごく力を入れていたが、もっと市民が使えるランニングロードとして、例えば陸連が何か認定をするとかができれば良いのではないかという検討をしていた。それが進んでくれば、宇治川マラソンの経路がランニングロードとして認知され、普段から走る人がいる状況になり、そこにアプリ連携ができれば、大会のあり方そのものも色々検討ができるのではないかと考える。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

リアルとバーチャルを上手く組み合わせると、できることはたくさんあると思う。そういうものも、ひろげる・つながるにもなると思う。より多様な人材を集めて色々な方策を考えていくべきではないかと思う。

(委員)

東京マラソンの話は、京都マラソンで実施していたのと同じような形か。

(委員)

そうだと思う。ただ問題は、条件がみんな違うので、全員が参加賞みたいな形で終わってしまうところで、競争の要素をいかに担保させるかが、すごく難しい。

(委員)

運動している人にとって、バーチャルの世界で一人で走るの、なかなかスポーツとして認められない部分があるのではないか。

(委員)

確かにそれもあるが、京都マラソンの場合は、道を走って、GPSで絵を描くというもので、採点があり、それに応じた表彰があった。そういう表彰やご褒美があると、人は頑張れる。

(委員)

万歩計が一番現実的で、健康にもつながり、取りかかりやすいと思う。年齢関係なくできるのはすごく楽しい。

(会長)

スマートフォンが非常に大きなツールだと思う。スマートフォンにはGPSも入っている為、スマートフォンを上手く活用するのも一つの手だと思う。人とハードをつなぐのはアプリなので、アプリの開発が進めばと思う。そういったところで民間が上手く参入されると良いと思う。

(委員)

健康思考の補助要因の形で万歩計を使うこともあるが、歩数に応じて宇治市から表彰状をもらえる等。自分が何歩歩くかという目標にはなるのではないか。

(委員)

八幡市では、健康診断や歩数に応じてポイントがつき、そのポイントでクオカードが貰える。また、市内の小学校や幼稚園に寄付するという選択もできる。その他にも、ボランティアをしたらポイントがつく等、そういったものを観光につなげることがと思う。宇治市にはその拠点もたくさんあるので、可能性が広がると思う。

(会長)

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

航空会社がマイルを活用しているのと同じように、歩いた距離をどう生かすか、健康に資すると医療費が上がることを避けることにもなるので、そこに投資をすることも考えられるかもしれない。

(委員)

八幡市で行っているものは、70～80歳代の方にも操作が簡単で、高齢の方も参加している。宇治市であれば、もっと広い範囲ができるので、夢があると思う。

(委員)

人が求めるのは何か貰えるや、何かが安くなる等の「お得で楽しい」こと。その中で、宇治川マラソンや色々な体育祭もそうだと思うが、観光とのセットプランにする。JALでも、航空券とセットで県外から人を呼ぶために、航空券とセットのプランがある。宇治川マラソンはそこまで検討されたのかということも疑問がある。サイクルを回してイベントが無くなることを阻止しないといけない。自治体の方々が今まで尽力されてきたことを消すということは、本当はしたくないと思う。

マンション住まいで町内会に入れず、地域と関わりを持たない人を救い出すために、そういう人達に責任を与えて、これを主催するとか責任を持つように言っていくシステムも今後は必要ではないかと思う。メインで動ける若い人達、大学を出てから子どもの成長を見守るまでの間の20～50歳代の方々は、ものすごくパワーも強いので、そこを活用しない手は無いと思う。学生に関してはボランティアでの参加とか、県外から来ている学生が宇治から地元は何を持って帰れるか、地域に関われるシステムづくりをしてもらいたい。今の人達は、個人で生きているので、人とのつながりが少ない。人と話すときには目を合わさない。12年後には目を合わせて話ができる人間を作っていきたいと思う。「お得で楽しい」ことができたと思う。

(委員)

アンケート結果で、市民の回収率が約26%に対してスポーツ団体は52～53%で、スポーツをしている人が、宇治のスポーツを引っ張っていくという気持ちが出ているのではないかと思う。市民の約26%という回収率は良い方なのか。

(会長)

回収率はそんなものだと思う。郵送で実施すると、もうなかなか回収できない。団体に依頼してプレッシャーをかけても、50%も集まらない。

(事務局)

一般的に、アンケートの回収率は20～30%程度で、30%を超えると、かなり良い。

(委員)

アンケートに商品券でも入れたら良いのではないか。

(会長)

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

そういう方法もある。アンケートに協力いただいた方から抽選とか、色々なやり方もあるが、行政がすると、そんなことに税金使うのかと、苦情をされる部分が圧倒的に怖い。

(委員)

スポーツも、インセンティブがあれば活動すると思う。

(会長)

本当は、インセンティブそのものを、それぞれ自身の中で生み出していけるようになれば良いが、それが難しい。だから導入の部分のところで「お得で楽しい」とか、そんなきっかけ作りがあっても良いとは思いますが、何かもらえないとしないではなくて、自分で楽しみを作っていくところにフェイズを変えていくのも必要だと思う。

(委員)

先程、「たのしむ」で応援する方の楽しみの話も出ていたが、運動会で敬老席を設けた際に、おばちゃん同士で「来年も元気でおいでや。」と話していたり、孫が走っているのを見ることを楽しみにしていたり、これも「ひろがる」の一つの要因だと思う。

(委員)

昨年7月に、クラウドファンディングで宇治市がゲームアプリを作っていたが、あれは秀逸だった。通常のスマホで遊ぶゲームだが、最後までクリアする為には、GPS情報を提供するように表示されて、宇治市にいないとクリアできない。それがすごく有効であったのであれば、今後アプリを作る際の参考にできるのではないか。「宇治市」という名前のアプリで、宇治市ゆかりの方々が活躍する内容だが、ものすごく楽しい。そういうものも含めて、インセンティブのあり方についても、色々と検討できると思う。スポーツで、とにかく自分は勝ちたいという方も含めて、色々と検討できる部分だと思う。

(会長)

とにかく関わるというところのハードルを下げる、そのためのツールがあれば良いと思う。

(委員)

この計画とは別に、観光振興計画で観光大使が15名いる。宇治市出身でメディア等に出られている方になるが、宇治市スポーツ大使が生まれたらPRができる。12年間でトップアスリートが生まれたら必ず応援や支援をまちぐるみでしていただければと思う。応援と支援、バックアップをして、宇治市を背負って次の大会に出るようになると、広報という部分でも宇治市という文字がテレビで見られたり、ラジオで聞こえたりするようになり、宇治の知名度向上にもつながると思う。全国大会に出たとか、広く支援と広報をすると、本人も頑張れるし、応援の立場からも、ああいう選手になりたいという憧れの象徴になるのではないか。

(会長)

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

スポーツですごく華々しい方だけではなくて、例えば観光大使にスポーツのことを言ってもらっても良いし、とにかく宇治にゆかりがある人には必ずコミットしてもらって発信してもらおうと良いのではないかな。

(委員)

宇治は、日本全国どこへ行こうが、「京都・宇治」と言うと、平等院とお茶が必ず出てくる。宇治の名前をなぜ知っているかと言うと、修学旅行で行ったと言われる方も多し。ものすごくネームバリューがある為、大使を作るとかでスポーツを引っ張っていく方法も一つだと思う。

(会長)

色々な角度から、とにかくコミットしてもらおうことが重要だと思う。トップアスリートに限らず、色々な方々にコミットしてもらおうものが作れると良いと思う。

(委員)

スポーツ選手やアスリートの最終目標は、地域に認定されることだと思う。ただ、すべて立候補はできなくて誰かの推薦しかないのだから、観光大使になりたいと思っても推薦してくれないとなれない。

宇治市出身ではなくて、宇治という名前を背負って何かをした方とかに規定を変えていただければと思う。スポーツ大使もスポーツ選手にとってはすごくありがたいことで、スポーツ大使のイベントとどこに行っても胸張って言えることなので、年1回だけでなく、何回でもイベントに呼んでいただいたら、最優先してアスリートは動くと思う。

(委員)

その方がインフルエンサーにもなる。

(委員)

京都サンガでは、これからSDGsを打ち出していく必要がある。我々のような支える側の人間は、基本的にホームタウン活動が仕事の半分以上で、企業とのつながりが残りの3分の1ぐらいで、そのほとんどがSDGsの1番から17番の中に入るような活動になっている。スポーツは、平等とか教育とかジェンダーとか、たくさん要素があるので決められないと思うが、2030年までにSDGsに対して貢献することも、盛り込まれると良いと思う。

話を聞いて考えると、やはりアプリが非常に効果的な手法・手段だと思う。私事になるが、先日、行ったコンサートでは会場の平均年齢は60歳程度だったが、ほとんどの方がアプリを使った申込をされていた。それぐらい年齢の高い方もアプリを持って使うことができるという事実がある。先ほど宇治市でアプリを制作という話もあったが、市民みんなにアプリを取ってもらい、そこにスポーツのアイコンがあって、今日のスポーツとして中学校の記録会があるとか、入場自由かどうか見られるようになればと思う。そういう情報を自由に入れて、触れ合うことの門戸をひろげることがあると良いと思う。

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

(会長)

たくさんの方が汎用的に使っているとするならば、その手だてを活用して、色々な情報発信を広げることができると思う。

(委員)

いかに情報を伝えるかということがすべての目的で、やはり1回アプリをとって、それを見る癖がつくと便利だと思う。市民のパブリックなアプリが1つあれば、今日の話で出ていたことの8割ぐらいは集約できるのではないかと思う。

(会長)

SDGsという言葉が使われ過ぎているとも思うが、持続可能な開発をしていながら、我々のコミュニティを守っていくという視点は、きっと一生なくならないと思うと、それに対して市を挙げて、スポーツの立場あるいは健康づくりの立場から何ができるかについて、文言を入れておくのは必要だと思うので、ぜひそれも組み込みたいと思う。

(事務局)

国際交流自体は、友好都市として、カナダのカムループス市と中国の咸陽市、それからスリランカのヌワラエリヤ市の3つがあって、カナダはスポーツ交流もしている。直近は、平成30年に咸陽市と交流があったが、それ以降は宇治市からの申出や先方からの申出がない限りは、コロナの関係でストップしている。

(委員)

国内でも、宇部市との交流も今はストップしている。

(会長)

スポーツだけの交流ではなくて、産業や文化の交流も一緒にすれば良いと思う。

(委員)

友好都市という今までの枠組みを生かすのもあるが、以前、国際宇宙ステーションで採用された急須のいらぬお茶に宇治茶が入っているという話を聞いたが、扱っているのは東京の会社だった。海外で、抹茶がすごくブランドとして確立されているので、宇治茶を皮切りにしながら、スポーツ交流も広げるという考え方もあると思う。+αで、例えば食育とか、お茶にとにかくスポーツを絡ませる、そういう話もあると良いと思う。

(会長)

平等院とお茶がすごいと言われるのであれば、それをやれば良いと思う。

(委員)

私は宇治市で女子野球タウン認定をしたいと思っている。黄檗球場を使って、女子野球の大会

第4回宇治市スポーツ推進審議会 議事要旨

を毎年開催したいということを目指しているが、そのためには女子野球タウン認定が必要になる。今、全国で10都市が認定されているが立候補で、認定されると大会と観光をセットにしないといけない。先日、広島県がタウン認定されて、広島県で開催している西日本大会には30チームが参加していた。優勝すると観光地のものがもらえたり、そういうタウン認定をしたいと思っている。

(会長)

いただいた意見をまとめさせていただきたいと思う。読みやすく平たい内容は、心に響かないと思うので、少しとがったことも書き記して、第6次総合計画に逆に提案ができるような計画にしたいと思う。いただいたものをすべて上手く盛り込めるかどうかは分からないが、その基軸としては、いただいたキーワードを残せるように書き込んでいきたいと思う。

4. その他

- 今後のスケジュールについての説明

5. 会長職務代理あいさつ

- 本審議会の振り返り